

が国为数の総合学園「再創造」に向けて大きな飛躍を遂げることが期待されます。

私学の生命と使命は「建学の精神」に宿っています。そして私たちは「建学の精神」を象徴する両校のスクールモットー“All for Christ”（聖和）と“Mastery for Service”（関学）が深いところで響き合っていることに改めて気づかされます。心を集中し、聖書のメッセージに聴きながら、その今日の意味を考え、関西学院聖和キャンパスで学ぶ互いの内的姿勢を整えたいと思います。

（関西学院大学名誉教授）

## 「マスタリー・フォア・サービス」の影響史

松 木 真 一

「マスタリー・フォア・サービス」という言葉は、入学以来たびたびお聞きになったことと思います。関西学院の建学の精神を端的に言い表した一句ですが、個人的には忘れられない思い出があります。私は中学部出身です。その中学部入学時のオリエンテーションが千刈キャンプ場でありました。真夜中に突然、先輩たちから全員呼び出されて（当時「ストーム」と言っていました）、この言葉の意味と校歌「空の翼」の厳しい指導を受けたのです。マスタリー・フォア・サービス＝奉仕への練達っ！と。全員で校歌を歌わされているときも、この一句が繰り返し出てきたのです！もちろんその意味など分かるはずもなかったのですが、それにもかかわらず何か体の中に深くしみ込んでしまっ、以来今に至るまで自分の体の一部になってしまった、という感じています。

私の属する理工学部卒業者が言っていました。「関学の思い出の中で、このマスタリー・フォア・サービスという言葉が一番心に残っている」と。そうなんです。同窓会に出ても、いろいろの卒業生に会っても、そのような印象をしばしば耳にします。

最近よく思うのですが、関西学院は周知の通り120年の歴史を歩んできた伝統校です。しかし同時に、このマスタリー・フォア・サービスという言葉自身もまた、その言葉の「歴史」を重ねてきたのではないかと。創立以来、それぞれの時代に関西学院で過ごし学んだおびただしい数の人たちの心の中に、この言葉がそれぞれの状況と場に沿った形で働きかけ作用し、直接にも間接にも影響を与え続けてきた、そうした影響の歴史を重ねてきたのではないかと。順調な時代にも激動の時代にも、飛躍的な前進の時にも危機の時にも混沌の時にも、学院で学び社会人になった一人ひとりの心に、行動に、考え方に価値観に、そして生き様に人生観に何らかの、あるいは深い影響力を持ち、時には人生の支えとなり、また道を切り拓く指針となる、そのような仕方でも影響を及ぼし続けてきたのではないのだろうか。さらに、そのことを通して自分の家庭に職場に、社会に地域に、また日本や世界各地に影響の輪を拡げてきたのではないのだろうか。

マスタリー・フォア・サービスという言葉や、120年もの長い歴史の中で大勢の人々に影響を与え続けてきた影響の歴史を背景にして、その歴史を踏まえて、今一度この言葉を新たに聞き取り受けとめるとき、一層深い意味と重みと価値を読み取ることができるのではないのでしょうか。

今始まったばかりです。一人ひとりの関学での生活が、この言葉を軸に学院での様々な学び、研究、友との出会い、先生との出会い、クラブ活動などすべての経験によって、深い影響を受けることでしょうし、あるいは人生を左右する決定的な影響を受けるかもしれません。大いに期待しつつ楽しみにしつつ、共に歩んで行きたいと願っています！

（理工学部宗教主事）